

5 小中一貫教育

津市小中一貫教育 ～小学校から中学校への系統的・連続的な教育の実施～

平成26年度スタート 【当初の主な課題】 ○基礎的な知識、技能を活用する力の不足 ○家庭学習習慣の未定着 ○中学校進学時の不登校生徒の増加

【目的】学力の向上・学校生活の充実・豊かな人間性や社会性の育成

学力の向上

課題を解決するための2つの柱

学校生活の充実

授業改善への主な取組

【これまでの取組】

安心して過ごせる学校づくりへの主な取組

【授業改善】



- 積極的な授業改善
 - ・授業方法の研究
 - ・専門家からの指導
- 小中合同研修会

【多様な人材の活用】



- 多様な人材の活用
 - ・授業力向上支援員
 - ・津市臨時講師
 - ・特別支援教育支援員等
- 小学校での教科担任制
- 乗り入れ授業

【英語力の向上】



- ALT (外国語指導助手)、英語教育推進指導員による外国語活動の充実
- 英語教育推進研修会開催による授業力の強化
- 英語ボランティアの活用

両輪としての取組

【指導の方向性統一】



- 生活のきまりの統一
- 家庭学習の手引き作成
- 読書活動の推進
- ・中学校区への図書館司書の配置

【学校生活の不安解消】



- 児童生徒の交流活動
 - ・人権フォーラム
 - ・合同文化祭
- 不登校の未然防止
- ・欠席状況等の情報共有

【地域の教育力の活用】

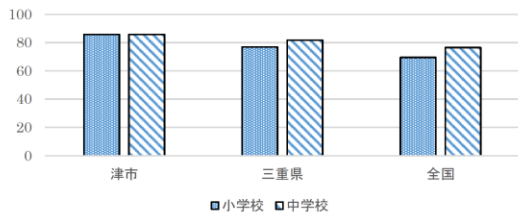


- 保護者・地域との合同活動
 - ・避難訓練
 - ・清掃活動
 - ・ノーマディアデーの取組

教員の意識向上

平成30年度 全国学力・学習状況調査 学校質問紙の結果より

「前年度までに、近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修会を行いましたか」



【成果】

◆学力の向上

- ◆「わかる授業・できる授業」への授業改善の促進
- ◆小学校から中学校への円滑な接続
- ◆生徒指導の方向性の統一
- ◆地域と連携した教育活動の充実

【今後の方向性】

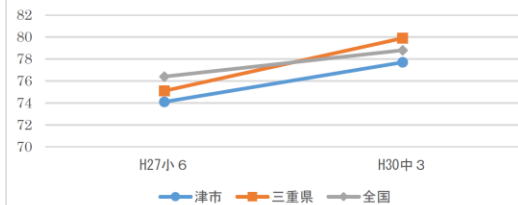
平成26年度から29年度までに全中学校区で実施した
津市小中一貫教育推進事業を礎に、平成30年度は

「小中一貫教育ネクスト事業」をスタート

自己有用感の醸成

平成30年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙の結果より

「自分には、よいところがある」



「自分には、よいところがある」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、平成27年度(小学6年生であった児童)が7.4、1%であったのに対し、平成30年度(中学3年生になった時点で7.7、7%と3.6ポイント上昇しています。

子どもたちの自己有用感を育むためには、小中連携しながら、学校における教育活動全体で子どもが達成感や満足感を味わい、周りから認められるような活動を継続し、小中学校で途切れない支援を行うことが大切です。

「前年度までに、近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修会を行いましたか」という質問に「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した小中学校の割合はともに8.5、7%で、小学校では1.6、2ポイント、中学校では9.2ポイントと全国平均を大きく上回っています。
昨年度、全中学校区で実施した小中一貫教育の成果として、小中連携、小中連携の取組がより一層充実し、9年間で子どもを育てるという意識の向上がうかがえます。この小中一貫教育の体制を活かして、系統的・連続的な教育の実施を図ります。

新学習指導要領の全面実施(小学校 2020年度・中学校 2021年度)に向けて

- 学校・地域・家庭の教育力の向上
- 授業方法を確立し、「わかる授業」「できる授業」の実現